

沖縄「返還」から53年

辺野古・大浦湾を埋め立てないで！



5月15日は、沖縄県の施政権が日本に返還されてから53年目です。しかし返還に込められた「基地のない平和な沖縄」の願いは踏みにじられ、今なお巨大な米軍基地が居座るばかりか、自衛隊基地の増強まで強行されています。

沖縄が軍事要塞に？

政府は、地方自治体の権限を奪う「代執行」という強権的な方法で、沖縄県名護市辺野古に新たな米軍基地を建設しようとしています。「世界一危険」と言われる普天間基地の「危険性除去」のための「移設」というのが政府の説明です。しかし沖縄で横行する米軍機の無法な危険飛行や、繰り返される米兵犯罪には有効な対策を講じようとしません。さらに先制攻撃能力を持つミサイル部隊を沖縄の島々に次々と配備し、沖縄を本格的な軍事要塞にしようとしています。

危険性除去は基地撤去で

数兆円もの血税を注いで造ろうとしているのは、普天間基地になかった新たな機能を伴う巨大な軍事要塞です。この計画は、環境、民主主義と地方自治、そして平和も壊すものです。普天間基地の危険性除去は、普天間基地の運用停止と撤去でこそ実現できます。



辺野古新基地建設工事の中止と
普天間基地撤去を求める署名にあなたも！

西田参院議員は撤回を

沖縄戦の史実をゆがめないで！

自民党の西田昌司参議院議員が、沖縄戦に動員された学徒を慰霊する「ひめゆりの塔」の展示説明を「歴史の書き換え」と発言し、「沖縄戦で民間人もたくさん犠牲になったが、助けるために日本軍が入った」と述べて批判を浴びています。沖縄戦は、本土決戦を遅らせるため日本軍が沖縄で時間稼ぎの持久戦を続け、県民に「軍官民共生共死」を強要し、県民の4人に1人が犠牲となる悲劇をもたらしたのです。歴史の歪曲は許されません。



日本平和委員会

2025年5月発行

一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです

「平和新聞」(旬刊)、「平和運動」(月刊)発行中

<http://j-peace.org/>

